

生誕150年記念

船場の絵描き 庭山耕園 — 近代大阪の四条派 —
2019年12月18日(水)－2020年2月9日(日)

庭山耕園（1869－1942）は、明治2年に姫路で生まれ、大阪の船場を中心に活躍した絵師です。四条派の上田耕冲（1819－1911）に師事し、写生を基本に季節感あふれる瀟洒な花鳥画を多く描きました。床の間に飾られ、部屋との調和が大切にされた耕園の作品、いわゆる「床映り」が重視された作品は、大阪の人々に広く親しまれました。

生誕150年を記念し、館蔵・寄託の作品により耕園の画業をご紹介します。近代大阪が育んだ船場文化の風情をお楽しみください。

コレクション展

2019年10月14日(月)、11月4日(月)開館

屏風祭り2019

2019年10月12日(土)－11月24日(日)

屏風には、複数のパネル（扇）でひとつの大画面を構成する作品のほかに、色紙、扇面、短冊など多数の小画面を散らした「貼交」や、パネルごとに独立した図を貼る「押絵貼」があります。中・近世の多彩な屏風の形式とそれぞれの魅力をご鑑賞ください。



《日吉山王祭礼図屏風》(左隻・部分) 江戸時代・17世紀 京都・金地院蔵

画中人 中国の人物画

2019年10月12日(土)－11月24日(日)



王蒙 《東坡抱研図》(部分)
清時代・光緒21年(1895) 本館蔵

人の姿を描くことは芸術に普遍的なことであり、中国絵画においても非常に長い伝統を持っています。画中にあらわれた人物は、自然と鑑賞するわたしたちの目を引きまします。人の姿といっても、神仙や儒仏の聖人、英雄や偉人、説話の登場人物や美人などさまざまです。本展では館蔵・寄託の人物画の逸品をご紹介します。



(左)
庭山耕園
《雨中燕子花図》
近代
本館蔵(庭山慶一郎氏寄贈)

(右)
庭山耕園
《八重桜五雀図》
大正14年(1925)
本館蔵(庭山慶一郎氏寄贈)

誰が袖 工芸・絵画

2019年10月26日(土)－12月8日(日)

衣桁や屏風に掛けられた着物、ゆるやかに立ちのぼる香炉の煙、誰もいない室内。「誰が袖」と称する題材は、こうしたプライベート空間を垣間見て、着物に薫きしめられた香りを想像し、その場にはいない誰かに思いを馳せる趣向を備えています。本展では、中・近世の漆工を中心に、描かれた衣裳の華やかさを見所のひとつとする絵画や染織などもお楽しみください。



《白綸子地海賦文様小袖》
江戸時代・18世紀 本館蔵

うるわし漆碗 朱・黒

2019年10月26日(土)－12月8日(日)

漆は堅牢性、殺菌性に富む天然の樹脂塗料です。その優れた性能は人の生活に深く息づき、食卓を彩る飲食器にも適うものでした。今回は江戸時代を中心とする漆碗を紹介するとともに、根来や漆絵などに通有する、大らかな塗りや加飾技法の世界もご覧に入れます。



《二重亀甲花菱紋散蒔絵碗》
江戸時代・19世紀 個人蔵

莊嚴供奉 — 仏教工芸の世界 —

2019年10月26日(土)－12月8日(日)

特別展「仏像 中国・日本」の開催にあわせて、仏教工芸の世界を館蔵・寄託の金工品を中心にご紹介します。寺院内の荘嚴や仏具・法具として用いられた様々な器物を、その用途や造形に注目しながらご堪能ください。仏像や仏画とともに、館内が仏教美術の殿堂と化すこの機会をどうぞお見逃しなく。



《金銅「二月堂」銘香木杓》
鎌倉時代・13世紀
本館蔵(田万コレクション)